

トビウオ通信 (R3 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-23-4806)

《令和2年（2020年）の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料（属人）などから、令和2年（1～12月）の島根県漁業の動向を取りまとめました（海面漁業・漁船漁業のみ）。

全体 … 漁獲量は前年の111%に増加・生産額は前年の85%に減少

令和2年の島根県（属人）の総漁獲量は8万9千トンで前年の111%（平年比80%）、総生産額は155億円で前年の85%（同80%）でした。（表1、図1、2）。総漁獲量は9千トンの増加、総生産額は27億円減少し、総生産額は過去5年で最も低い年となりました。

漁業種類別の構成比は、漁獲量ではまき網が全体の80%、定置網が6%、小型底びき網1種が4%、沖合底びき網2そう曳きが3%、べにずわいがにかごが3%、いか釣り、釣・延縄、その他がそれぞれ1%、0.5%、3%となりました（図1）。生産額ではまき網が全体の44%、定置網が12%、小型底びき網1種が10%、沖合底びき網2そう曳きが10%となりました（図2）。

魚種別でみると、漁獲量の上位5種はマイワシ（2万9千トン、平年比133%）、マアジ（1万5千トン、同59%）、サバ類（1万トン、同45%）、ブリ（1万トン、同91%）、カタクチイワシ（5千トン、同130%）となりました（図3）。

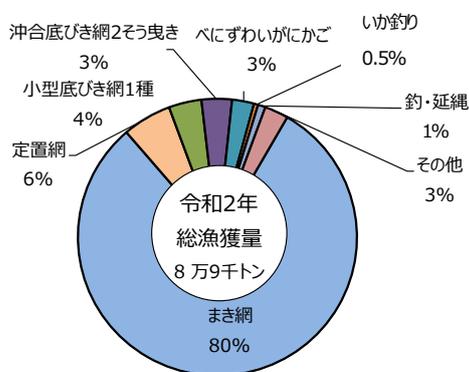


図1 令和2年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

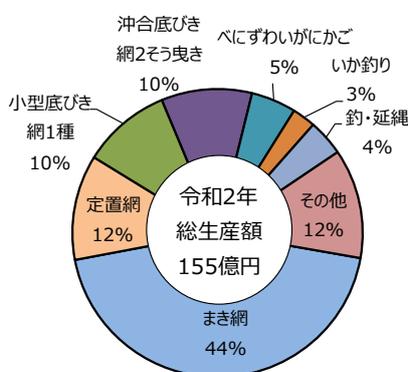


図2 令和2年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

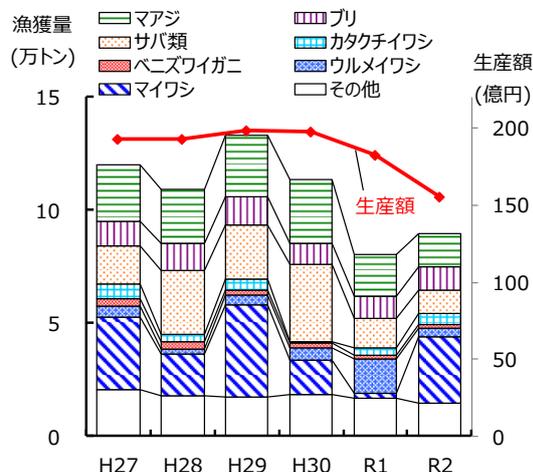


図3 島根県の総漁獲量・総生産額の推移

＜文中の語句説明＞

- ☞ 令和2年の漁獲量・生産額および平年比は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網の魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている1経営体を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は令和元年の数値、「平年」は過去5年（平成27年～令和元年）、沖合底びき網漁業のみ過去10年（平成22年～令和元年）の平均値を指します。

まき網漁業 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は前年の 123%に増加・生産額は前年の 86%に減少

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。令和 2 年のまき網漁業全体の漁獲量は 7 万 2 千トンで前年の 120%（年平均比 81%）、生産額は 68 億 3 千万円で前年の 87%（年平均比 86%）でした。

まき網漁業のうち大半を占める中型まき網の漁獲量は 6 万 4 千トンで前年の 123%（年平均比 82%）、生産額は 57 億円で前年の 87%（同 83%）でした（図 4）。前年に比べてマイワシの漁獲量は増加しましたが前年好漁のウルメイワシの漁獲量は減少しました。マアジ・サバ類の漁獲量の減少が 2 年続いておりその影響で生産額は減少傾向にあります。1 船団あたりの漁獲量は 6 千トンで前年の 123%（年平均比 85%）、生産額は 5 億 2 千万円で前年の 86%（同 86%）でした。

魚種別でみると、漁獲量の上位 5 種はマイワシ（2 万 6 千トン、年平均比 122%）、マアジ（1 万 2 千トン、同 59%）、サバ類（8 千 6 百トン、同 48%）、ブリ（7 千 8 百トン、同 103%）、カタクチイワシ（4 千 5 百トン、同 134%）となりました。

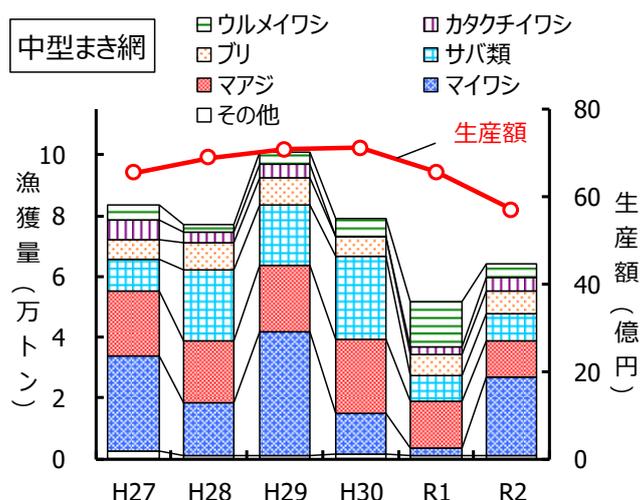


図 4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業(2そう曳き) ……1 船団あたりの漁獲量は前年の 98%・生産額は前年の 103%

沖合底びき網漁業（2 そう曳き）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。令和 2 年の漁獲量は 3 千百トンで前年の 82%（年平均比 71%）、生産額は 15 億 7 千万円で前年の 87%（同 75%）でした（図 5）。令和元年に操業統数の減少があり漁獲量、金額ともに減少しました。1 船団あたりの漁獲量は 630 トンで前年の 98%（同 102%）、生産額は 3 億 1 千万円で前年の 103%（同 107%）でともに年平均並みでした。

魚種別では漁獲量が多い順に、キダイ（年平均比 79%）、アナゴ・ハモ類（同 93%）、アカムツ（同 98%）、ムシガレイ（同 53%）、ソウハチ（同 80%）となりました。

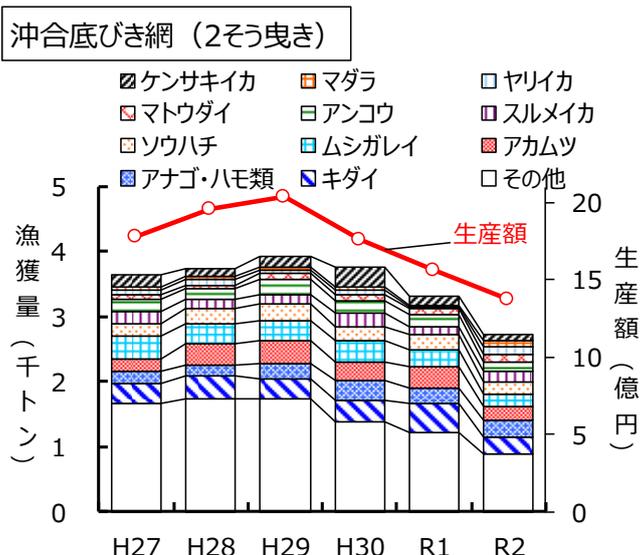


図 5 沖合底びき網漁業（2 そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量は前年の97%・生産額は前年の95%

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる漁法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。令和2年の漁獲量は3千4百トンで前年の93%（平年比87%）で、生産額は15億4千万円で前年の91%（同87%）でした（図6）。1隻あたりでみると漁獲量は86トンで前年の97%（平年比93%）、生産額は3千9百万円で前年の95%（同93%）でともに平年並みでした。

魚種別では漁獲量が多い順に、ソウハチ（平年比96%）、アンコウ（同161%）、アカガレイ（同145%）、アナゴ・ハモ類（同93%）、ニギス（同58%）となりました（図6）。

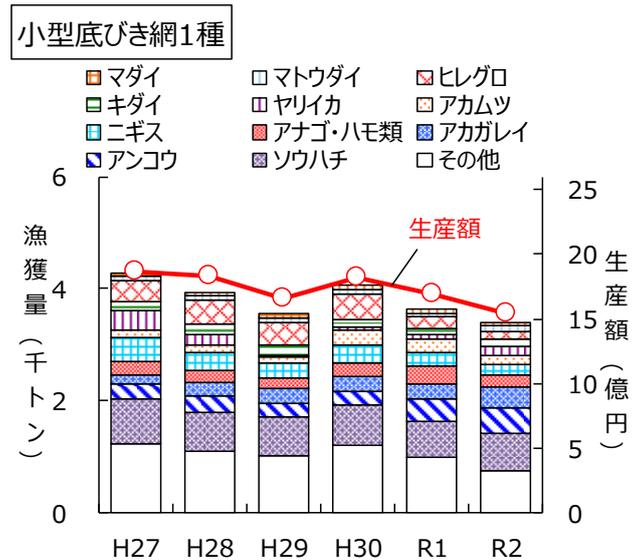


図6 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

定置網漁業 …… 漁獲量は前年の91%・生産額は前年の88%

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を設置し、来遊してくる魚を漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などが漁獲対象となります。令和2年の漁獲量は5千百トンで前年の91%（平年比82%）、生産額は18億3千万円で前年の88%（同85%）でした（図7）。また、大型定置網の1経営体あたりの漁獲量は218トン（同83%）、生産額は8千万円（同85%）でした。

出雲地区の漁獲量は3千6百トン（平年比91%）で平年並み、石見地区は693トン（同69%）、隠岐地区は830トン（同64%）でいずれも平年を下回りました。

魚種別の動向は、出雲地区の上位3種はサワラ類（平年比110%）、ブリ（同115%）、マアジ（同61%）となりました。石見地区ではマアジ（平年比58%）、ブリ（同148%）、ケンサキイカ（同91%）となりました。隠岐地区ではブリ（平年比55%）、マアジ（同44%）、スルメイカ（同62%）となりました。

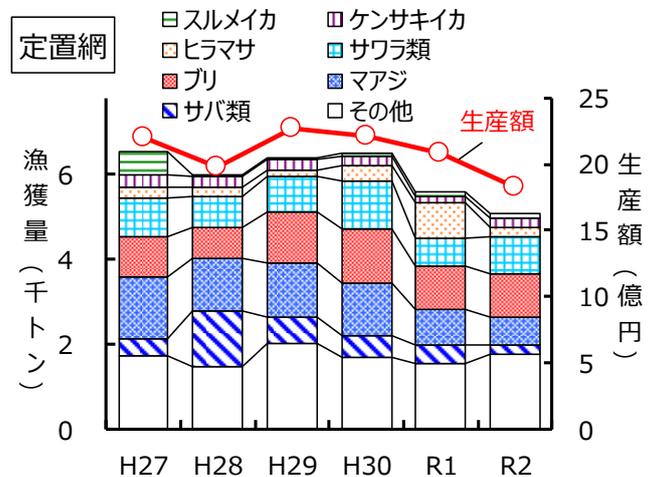


図7 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

釣り・延縄 … 漁獲量は前年の85%・生産額は前年の79%

釣り・延縄の令和2年の漁獲量は775トンで前年の85%（平年比77%）、生産額は6億3千万円で前年の79%（同69%）でした（図8）。

出雲地区の漁獲量は330トン（平年比70%）で平年を下回り、石見地区は255トン（同80%）で平年並み、隠岐地区は190トン（同87%）で平年並みでした。

魚種別の動向は、出雲地区の上位3種はブリ（平年比54%）、サワラ類（同65%）、ヒラマサ（同221%）となりました。石見地区ではヒラマサ（平年比144%）、サワラ類（同78%）、ブリ（同71%）となりました。隠岐地区ではブリ（平年比64%）、カサゴ・メバル類（同79%）、キントキダイ類（同211%）となりました。近年、漁獲量が減少傾向にあるのは漁業者の減少が原因の一つと考えられます。

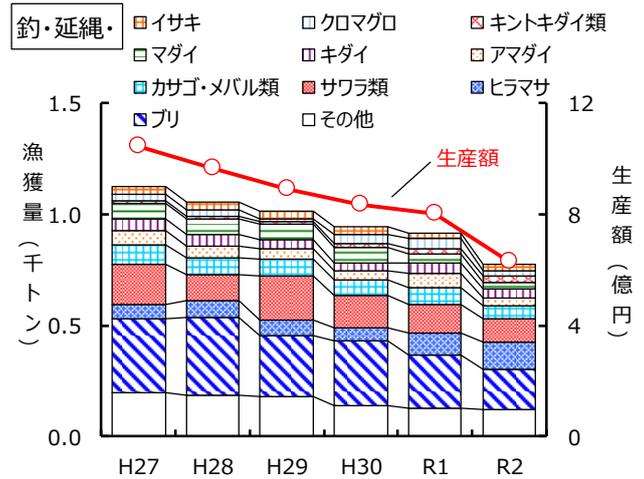


図8 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移

イカ釣り … ケンサキイカの漁獲量は前年の105%・スルメイカの漁獲量は前年の57%

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。

令和2年の漁獲量は435トンで前年の73%（平年比60%）、生産額は4億円で前年の83%（同65%）で平年を下回りました（図9）。魚種別の動向は、スルメイカ（平年比91%）、ケンサキイカ（同46%）、ヤリイカ（同22%）となりました。ケンサキイカは九州地方から日本海の広範囲で記録的な不漁となった令和元年に引き続き不漁となりました。

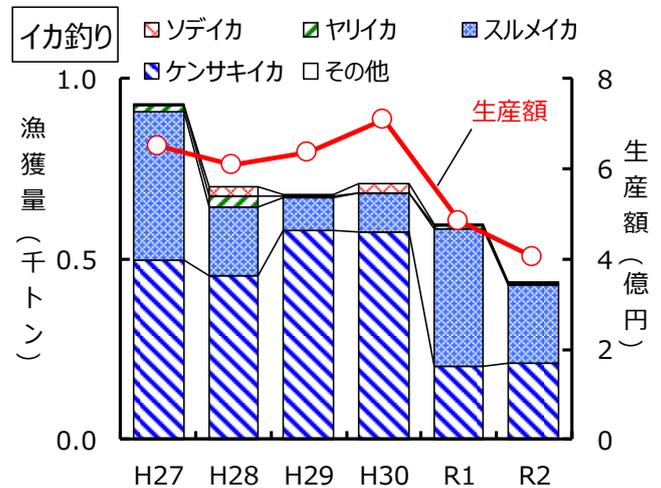


図9 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。
 (<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

表1 令和2年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	89,412	80%	111%	15,522	80%	85%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	2,380	40%	52%	567	61%	55%	813	41%	▲	192	63%	▲
	隠岐	61,564	85%	130%	5,130	87%	93%	7,695	86%	○	641	88%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	3,144	71%	82%	1,567	75%	87%	629	102%	○	313	107%	○
小型底びき網1種	石見	3,247	87%	92%	1,444	86%	90%	87	93%	○	39	92%	○
定置網 ※※	出雲	3,556	91%	91%	1,323	87%	85%	251	92%	○	94	89%	○
	石見	693	69%	90%	235	81%	101%	151	68%	▲	50	80%	○
	隠岐	830	64%	93%	273	79%	90%	164	60%	▲	57	71%	▲
釣り・延縄	出雲	330	70%	83%	230	71%	78%	—	—	—	—	—	—
	石見	255	80%	80%	182	67%	69%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	190	87%	94%	217	69%	90%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	132	46%	83%	158	58%	90%	—	—	—	—	—	—
	石見	93	51%	122%	121	67%	121%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	210	82%	58%	125	77%	60%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内全漁協・全経営体が対象。

平年比：過去5年(H27～令和元年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H22～令和元年) 漁模様：◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1経営体あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(H27～令和2年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。